



命を守る判断力・マニュアルの見直し

1月6日、10時18分に大きな地震が発生しました。各園とも保育活動中でしたが、園庭に避難し、無事園児を保護者へ引き渡すことができました。保護者の皆様には急なお迎えにご対応いただき、ありがとうございました。

大きな揺れで子ども達も動揺していましたが、以上児は机の下やロッカーに避難して体を守る園児もいたと報告を受け、日ごろの避難訓練の重要性を痛感しました。

職員も落ち着いて園児を誘導し、「園児の命を守る」という強い信念を持って行動しました。しかし、その判断が合っていたのか…という反省もたくさんあり、すぐにマニュアルの再確認や見直し、職員会での振り返りを実施しました。

園庭に避難後、吹雪、雨、真夏の高温など天候によっては避難後の次の判断を早急にしていく必要がある、園庭に避難した後はテントなどすぐに出せる場所に置いて設置する等、実際の体験からの振り返りができました。

子ども達の命を守るために今後の方針を再確認しました。

- ・震度5以上の地震の場合は保護者にお迎えをお願いする
- ・園庭に避難後は早めに第2避難場所に移動する

実際に地震を体験して、マニュアル通りに動くことの難しさ、マニュアルにない判断も必要になることを体験しました。そして今後も避難訓練をしっかりと実施していき、園児の動き、職員の動きも確認していき、子ども達の命を守っていきたいと思います。

『思考錯誤とは?』…の巻

未来を創る

皆さんも何度となく聞いてきたこの『思考錯誤』という言葉ですが、どんなことなのか?、ちょっと考えてみたいと思います。

誰もが何ごとにも、1回目の挑戦でうまくいくことはそうそうありません。あるいは1回うまくいったとしても次に挑戦したときに、それが確実に再現できるかどうかは分かりません。何度も挑戦を繰り返すことで「どうしたらうまくいって、どうしたらうまくいかないのか」をつかんでいく。それを成長と言っているわけです。つまりはうまくいかなかったときに、「これは無理だ!」とすぐに撤退するのではなく、どうしたらいいかをあれこれ考え、もともと持っていた目標にある程度近づくまでは努力を続けることが、一番大事な力であると言えます。汐見氏はこの力を「思考錯誤力」と呼び、トライアンドエラーをする力だと言われます。

年長児のクラスで、思うように回らないコマ回しに没頭している姿が、まさにその「思考錯誤」している場面だと、先日実感しました。誰かに教わるのではなく、自分で発見する方が、喜びも大きいことでしょう。

我々大人が「どうしたらうまくいこうだろう…」と子どもに考えさせられる言葉をどれだけ投げかけられるか、一緒に楽しんでやっていきましょう。